

令和2年6月10日

保護者の皆様

若竹保育園

園長 山崎竜二

今年度以降の雪遊び遠足中止のお知らせ

いつも当園の保育活動にご協力賜りましてありがとうございます。

この度は表題にあります通り、園内で検討を重ねた結果、年長組の平成17年度年長組から続けてきました雪遊び遠足を今年度より、中止させていただくことになりましたことをお知らせいたします。

楽しみにされていたお子様も多かったことと思いますが、大変申し訳ありません。なるべく行えるよう検討しましたが、過密化するスケジュール、幼児用宿泊施設の確保および積雪量の減少、感染症対策など、難しい課題が多く今回の決断に至りました。

雪遊び遠足は、これまで2月の中旬から下旬に行ってきましたが、その前後には、「お店屋さんごっこ」「卒園式」「卒園制作」などがあり、過密なスケジュールとなっていました。このことによる年長担任の残業時間、作業量が大変多く、改善を検討しておりました。その仕事量の改善が図れず近年、年長組経験者が離職してしまうこともあり、若竹保育園の喫緊の課題となっていました。当園にとっても人材が一番の財産と考えていること、また子ども達にとっても大変な損失と思い、若竹保育園流の働き方改革として、一年間のスケジュールを再検討しました。

なぜ数ある行事の中から、雪遊び遠足が割愛になったかと申しますと、その理由として、幼児が雪遊びできる場所と積雪量、また感染症予防対策の困難さ、そこまでの距離が挙げられます。一昨年まで使用していた群馬県にある高原千葉村が閉館し、車での移動時間5時間以内の幼児向け宿泊施設を探し、昨年は福島県にある国立那須甲子青少年自然の家を利用することになりました。現場視察や会議を重ね、保護者の皆様にもご協力いただき、準備を進めてきました。しかし、当日積雪はほぼなく、急遽近隣のスキー場を探し、唯一人口雪で幼児が使用できるマウントジーンズスキー場にて雪遊びを行いました。この他のスキー場も探しましたが、移動可能範囲で適切な場所は見つけれませんでした。

また、雪遊び遠足に向けて、インフルエンザや胃腸炎などに気を付けながら準備を行ってきたのですが、今年度以降は新型コロナウイルスの流行期と重なる危険性があり、国からも、今回スキー場の共有スペースの使用を制限されたことから（昨年度は制限されていませんでした）、来年以降の感染リスクを考慮しなければならない状況となりました。

以上のことから今年度以降の年長組雪遊び遠足を中止すべきと判断いたしました。申し訳ありません。

ただし、完全に遠足をなくすのではなく、子どもたちが卒園までに行きたい場所ややってみたくことを聞き、日帰りの「さよなら遠足」を検討するなど、対応を図ってまいりたいと思います。楽しんでいた方も多い中、大変恐縮ですが何卒ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。